

子どものことばを育てる 大人のかかわり

おおぞら児童園の言語聴覚士（ST）が伊勢市内の子育て支援センターで『乳幼児のことばの発達』の講座を行っています。参加された保護者の方から質問や困りごととして『どうやったら、ことばが増えるの？』や『どんなことばかけがいいのかわからない』といったおはなしをよく聞きます。今回はすぐに実践できる、子どもとのかかわり方で気をつけるポイントや、子どものことばを育てる声掛けの方法を紹介します。



子どもとの関わり方で気をつけたいことを**チェックリスト**にしました。チェックをつけてみましょう♪

Check list

- ☐ 早口にならないよう気をつけている。 ➡①
- ☐ 身振りをしながら話している。 ➡③
- ☐ 表情を意識している。 ➡③
- ☐ 短いことばで話しかけている。 ➡③
- ☐ 子どもの行動や気持ちをことばにしている。 ➡②④
- ☐ 上手に言えなかったら、大人が正しい言葉を伝えている。 ➡⑤

※チェック☑ がつかなかったものは➡の番号に進み、声掛けで気をつけるポイントを見て、一度振り返ってみましょう。

①どんな表現ができているか観察してみよう

お子さんが何かしてほしい時にどのような表現（指差しやジェスチャー、喃語、単語、二語文等）で伝えようとしているか観察してみましょう。



②実況中継してみよう

お子さんの現在の表現方法を認めつつ、お子さんに言ってほしいことばを伝えてみましょう。またお子さんが何を考え、何をしているのかをよく観察し、お子さんが注目しているものや行動を、大人が代わりにことばにしてあげましょう。

（例：お子さんが見ている物や行動、気持ちを代弁し**実況中継**のようにことばかけをする。
りんごを見て「りんごだね」「あかいね」「とって」だね など。



コミュニケーションを通じて言葉の意味や使い方を学んでいきます

③伝え方に気を付けて！ゆっくりと短いことばで

お子さんは大人よりも聞いて覚えられる量が少ないです。音声だけでなく、ジェスチャーや表情なども一緒に伝えてあげるとわかりやすいです。またゆっくり、短いことばで伝えることがポイントです。（例：おでかけの時「くつはいて、かばんもって、でかけるよ」よりも「くつ はくよ」「かばん もつよ」と動作ごとに声掛け）



幼児語や擬音語、擬態語は繰り返しが多く（例：『わんわん』や『ちょきちょき』など）小さいお子さんにも聞き取りやすく真似しやすいです。

ちょきちょき



④今言えていることばにもう1つことばを足して伝えよう

お子さんの話していることばに、もう1つことばを付け加えて伝えましょう。新しいことばのモデルを聞かせることで、新たなことばを獲得していきます。



⑤発音が誤っている時はさりげなく正しい言葉を伝えよう

お子さんの発音が誤っている時は、大人がさりげなく、正しい発音で伝えていきましょう。発音を指摘されたり言い直しをさせられると、子どもの話したい意欲が低下してしまいます。

例：ねこを見て、子ども「ねと！」

大人「ちがうよ、ね・こ！言ってみて！」

と言うより、話したい内容に注目して「ねこだね」

と正しい発音を伝えてみましょう♪



『子どものことばを育てる大人のかかわり』について5つのポイントをお伝えしました。普段何気なくしている声掛けですが、少し意識して取り入れてみてはどうでしょうか？

他にもことばのことで何かお困りのことがありましたら、お気軽におおぞら児童園の言語聴覚士にご相談くださいね♪

